

「バナナ名刺」で 環境と貧困救え

札幌の会社が作製、販売

「バナナ名刺」で環境 穫後に廃棄されるごみと貧困を救える。札幌 で、新たに木を切らない市の印刷会社「丸吉日新 ため環境にも優しい。

堂印刷」が、アフリカ南部ザンビア産バナナの茎を原料にした名刺を作製し、販売を始めた。従来、捨てられていた部分の商品化は、現地の雇用創出と森林保護に結び付く取り組みだ。

「『これ、バナナなんですよ』と名刺交換するだけで、相手は環境問題に関心を持ってくれる」。同社の阿部晋也社長(40)は笑顔で話す。

名刺は、茎の細かい繊維が浮かび、和紙のような風合いが特徴。茎と古紙を3対7の割合で混ぜて作る。茎はバナナの収



名刺の原料に使われる乾燥させたバナナの茎
⑥と、様々な素材で作られている「エコ名刺」

茎を乾燥させる工程などは、貧困者が多い現地
に任せられ、雇用が生ま
れている。日本で4千人
規模の会社がバナナ名刺
に切り替えると、1年間
で約200人のザンビア
人が生活できるとい
う。収入を得るための違法な

森林伐採の防止にも役立ちそうだ。

同社は約10年前からペ
ットボトルの再生材など
を使った「エコ名刺」を
販売。愛用するスウェー
デン人の発案でバナナの
茎の利用が実現した。ほ
かにも札幌・大通公園で
売られるトウモロコシの
皮、牛乳パック、間伐材
など15種類の名刺を扱
う。

バナナ名刺は100枚
で1680円からと2割
ほど高いが、環境意識の
高い企業や個人から注文
が相次ぐ。顧客の8割は
道外で、名刺交換や口コ
ミを通じて人気が高まっ
ている。

阿部社長は「環境問題
の解決に必要なのは、互
いを思いやるコミュニケ
ーション。名刺を通じた
人との出会いが、環境を
守るきっかけになってほ
しい」と話した。